特別講話要旨

これまで歩んで来た道

追手門学院大学国際学部
蛭田勲

本講話では、過去に大阪府教育委員会において実施された施策の内の一つである大阪府公立高校の英語入試問題の改革について報告する。
大阪府の入試問題にはA問題（基礎)、B問題（標準)、C問題（発展）のレベル別の３種類があり、本改革はその中のC問題を対象とした。学習指導要領が求める英語の４技能をバランスよく指導する授業づくりに資することを目的とし、具体的にはリスニングとライティングの配点割合を50%以上とした。特にライティングも読んで聞いた内容を踏まえて自分の考えを書く形式とすることで、受験生のcritical thinkingを問う構成とした。
読解問題の比率は従来より低下したが、英文量は大幅に増加している。従来は1分間に読解すべき語数は約35語であったのに対し、本改革では速読速解力を問うため約95語とした。さらに指示文を含め問題文は全て英語にした点が最も大きな特徴である。
東進ハイスクール講師の安河内哲也氏はこの改革を日本の英語教育の改善に向けての大きな第一歩であると評価した。